

柳田國男の

本市は、『遠野物語』の著者・柳田國男の生誕地である兵庫県福崎町と友好都市提携を結びました。柳田國男の縁が結んだ交流の可能性に迫ります。

縁 えにし

縁から絆へ

本市と兵庫県福崎町との交流が本格的に始まったのは昭和62年のこと。同年、柳田國男の民俗学研究と関わりが深い自治体の首長が一堂に会する「柳田國男ゆかりサミット」が始まり、柳田の研究や、教育、文化、産業の振興を目的とした交流がスタートしました。同サミットが終了した平成14年以降も交流を継続。遠野市立博物館による柳田をテーマにした展覧会などの際には、同町から資料の提供や取材などに協力をいただきました。また、平成22年の『遠野物語』発行100周年や、平成24年の柳田國男没後50年などの節目の際には、両市町の関

係者が交流を図ったほか、東日本大震災時には、同町からあつい支援も受け、柳田國男の縁は深い友情の絆へと発展しました。

未永い交流を誓う

そして迎えた本年8月23日。両市町の友好都市共同宣言調印式は、あえりあ遠野交流ホールで開催されました。両市町の関係者や遠野市民ら200人が出席。「文化・教育・観光など交流を推進し、友好の絆をさらに深める」とする友好都市共同宣言に調印し、本市の本田敏秋市長と新田勝見市議会議長、同町の嶋田正義町長と志水正幸町議会議長が固い握手を交わし、未

永い交流を約束しました。本町市長は「柳田國男が『遠野物語』に込めたメッセージを共に掘り下げ、その普遍的な価値を全国に発信したい」と決意。嶋田町長は「文化的な交流を進展させ、豊かなまちづくりにつなげていきたいと思います」と呼び掛けました。

歴史と文化が薫るまち

兵庫県福崎町は、世界遺産「姫路城」などで有名な姫路市の北隣に位置し、人口は約2万人。古くから交通の要衝として栄え、豊かな自然に恵まれた美しい町です。関西初の中小企業大学が設立された地でもあり、多数の誘致企業が拠点を置く商工業のまち



遠野市と福崎町の交流の歩み

- 昭和62年5月 「柳田國男ゆかりサミット」スタート。柳田の精神を学びながら、さまざまな市民交流が展開された
- 平成4年7月 遠野市立博物館で柳田國男に関する展覧会を初開催
- 平成22年6月 『遠野物語』100年祭に嶋田福崎町長が出席
- 平成23年3月 東日本大震災発生。福崎町から厚い支援を受ける
- 平成23年8月 福崎町で開催された柳田國男50年祭に本町市長が出席
- 平成24年6月 遠野市立博物館で柳田國男に関する展覧会を開催
- 平成26年8月 友好都市共同宣言調印

文化の力で高め合う

でもありません。日本民俗学の父・柳田國男の生誕地であることから、民俗学研究が盛ん。柳田國男が生まれ育った辻川地区では、歴史的建造物や景観が大切に保存され、「民俗学のふるさと」として多くの観光客が訪れています。同町の文化的資源を生かしたまちづくりは、本市と相通じるものがあります。

福崎町と柳田國男

柳田國男は、明治8年7月31日、神東郡田原村辻川(現福崎町西田原)の松岡家で生まれました。「民俗学」への興味を抱ききっかけとなったのが、福崎で過ごした少年時代の経験であったと、後に柳田は語っています。10代で福崎を離れ約70年を経た後、神戸新聞に連載した「故郷七十年」(右下)には、福崎でのさまざまな思い出や、当時の福崎の様子が生き生きと描かれています。

柳田が幼い頃の福崎は、豊かな自然に囲まれ、民俗行事や伝統文化が色濃く残る古き良き日本の農村でした。その幼い頃の記憶が、全国の農山村の風土や民俗に興味を抱かせ、その価値を掘り起こそうとする原動力になったのです。柳田は生涯、福崎への郷愁の念を抱き続けていたことが、研究でも明らかになっています。



民話のふるさと遠野と民俗学のふるさと福崎。両市町は今後、柳田國男や民俗学、『遠野物語』などの共同研究や、互いのまちを知り合うための展覧会、市民交流などを企画していく予定です。文化をまちづくりの中心に置く自治体間の連携は全国的にも珍しい取り組み。この交流は、互いの知名度を高め、文化的資源を活用した観光振興や地域活性化などの新たなモデルの構築が期待されています。10年前、『遠野物語』の世界観が日本中の人々を驚かせたように、今度は、文化的交流から新たな物語を紡ぎ、全国に発信していきましょう。

新たなハーモニーを、遠野と福崎の地から。

遠野の地を訪れるにつれ、私は遠野の魅力が大きく3つ発見しました。福祉に力を入れていること、友情や絆を大切にしていること、そして、文化を大切に継承し観光資源として活用していることです。それぞれの魅力が歌声のように響き合い、美しいハーモニーを奏でていることに感銘を受けました。柳田國男の縁で、『遠野物語』の世界観が今なお息づく神秘的で美しいまちと交流できることは、福崎町にとって喜びです。

柳田は、日本中を旅した後にこう語っています。「まちは、そこに住む者が良くも悪くも影響する」と。遠野市民の皆

さまの「少しでもまちを良くしたい」という思いが、遠野の美しさを醸し出しているのでしょう。それは100年前もきっと同じで、遠野を訪れた柳田を感動させたのです。私たち福崎町民も、柳田の教えから、そして遠野のまちづくりから、さまざまなことを学び、活力にあふれ、風格ある住みよい町をつくりたいのです。

遠野と福崎の文化的交流は、地方の魅力を高め、地域を活性化させる新たなモデルとして、全国に向けて素晴らしい情報を発信できる可能性を持っています。この交流が生み出す新たなハーモニーは、きっと日本中に響き渡ることでしょ



福崎町
嶋田 正義 町長
Masayoshi Shimada



Kunio Ynagita
©柳田國男(1875~1962)
兵庫県福崎町生まれ。日本民俗学の創始者。遠野出身の佐々木喜善から聴いた昔話などをもとに『遠野物語』を著した。